

**平成28年度 第2回  
まつさかファミリーサポートセンター  
援助会員養成講座のご案内**



「子育てを応援したい!」「子どもが好き!」という方は、ぜひ受講していただき援助会員として登録し、子育て家庭を支援しませんか?

会場 ワークセンター松阪内 労働会館  
対象 松阪市内及び近隣市町に在住する  
20歳以上の方

募集人数 30名(先着順)  
受講料 無料(但しテキスト代2,200円が必要)  
託児 無料 締切 1月10日(火)

1月17日(火)	オリエンテーション ①保育サポーターの役割と心得 ②松阪市の子育て支援サービスの現状 ③子どもの遊び
1月21日(土)	④小児看護 ⑤乳児の暮らしとケア
1月22日(日)	⑥子どもの心の発達と障害について ⑦子どもの事故と安全・幼児救急法
1月26日(木)	⑧子どもの栄養と食生活 ⑨子どもの発達と病気
1月28日(土)	⑩保育の心 ⑪事業を円滑にするために ⑫講座を振り返って

●**チャイルドラインMIE**  
(きいてほしいな...) 子どもの心を受け止める  
18歳までの子ども専用電話  
**0120-99-7777**  
毎週 月曜日~土曜日 午後4:00~午後9:00

●**こどもほっとダイヤル**  
(たすけて!も言える) 子どもだけが相談できる  
18歳未満の子どものための相談電話  
**0800-200-2555**  
毎日 午後1:00~午後9:00  
(12月29日~1月3日はお休み)



**おしらせ**  
毎年恒例のゆきあそびツアーを今年も行います。

日時 2月4日(土)  
行き先 奥伊吹スキー場  
対象・定員 幼児小学生親子・35名  
参加費 小学生以上 9000円  
3才以上未就学児 4500円  
2才以下 300円

**レッジョ・エミリア市を視察して**

vol.1

昨年11月21日~11月28日、(特)三重県子どもNPOサポートセンターの主催でイタリア北部にあるレッジョ・エミリア市へ19名で視察に行きました。「子どもを主体にした」乳幼児教育をぜひ見て感じたいと思い参加しました。レッジョ・エミリア市の乳幼児教育は世界的にも注目されていて、私たちが視察した時も36か国から100人が研修を受けに来ていました。

そこでは、子ども一人ひとりが何に興味があり、何を感しているかが尊重され、子ども自身が考え、仲間や先生と話し合い、協力し合い、失敗をしながら自分で答えを見つける保育が実践されています。特に、自分の考えを話し、他人の考えを聴くことが大切にされ、小さい頃からお互いの違いを認め合う環境が作られていると感じました。先生は自分が知っていることを教えるのではなく、子ども一人ひとりをよく観察し、一緒に話し合い考えます。子どもと大人がお互いに、学び合う関係であるということが素晴らしいと思いました。この視察で子どもの力を信じるとはどういうことか、大人の関わり方について改めて考えることができました。



●この会に賛同し、会を支えてくださる個人・団体の方を募集しています●  
個人正会員・参加会員：年8,400円 賛助団体会員：年1口10,000円 支援会員：年1口3,000円  
※入会金：300円

11月末会員数 正会員：27名 参加会員：5名 支援会員：86名 賛助団体会員：25団体

<p>【賛助団体会員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療法人 イワサ小児科</li> <li>うれしの 太田クリニック</li> <li>大久保クリニック</li> <li>おおたクリニック</li> <li>岡田パッケージ株式会社</li> <li>医療法人 河合産婦人科</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療法人 桜木記念病院</li> <li>ささおこどもクリニック</li> <li>株式会社 ジェントリー</li> <li>上瀬クリニック</li> <li>医療法人 たるみ内科胃腸科</li> <li>医療法人 地主矯正歯科クリニック</li> <li>鎮守の森を夢見る会・その二</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海印刷株式会社</li> <li>東海シール株式会社</li> <li>ナガフジ産業株式会社</li> <li>はせがわこどもクリニック</li> <li>健康体操 ひまわり会</li> <li>株式会社 富士土地</li> <li>株式会社 フレンス</li> <li>ミスタードーナツ・松燈庵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松阪市健康体操連絡協議会</li> <li>まんのう整形外科</li> <li>医療法人 南産婦人科</li> <li>医療法人社団 鷺尾小児科</li> <li>他一団体</li> </ul>
---	--	---	--

特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター

〒515-0084 松阪市日野町788 カリヨンプラザ1F (開所日・時間 月~金10:00~17:00)  
TEL 0598-20-8344 FAX 0598-20-8345 ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール [info@mknpo.jp](mailto:info@mknpo.jp)



**里親シンポジウム ~あなたに今知って欲しい。里親という家族のかたち~**

平成28年10月8日(土) 玉城町保健福祉会館ふれあいホール

三重県には、様々な事情で家庭では養育できない子どもが約500人います。その状況を理解し、里親とはどういうものかを知っていただくために里親シンポジウムが開催され、県内から377人が参加されました。基調講演「今、なぜ社会的養護が必要なのか~研究者の立場から~」では、長野大学准教授の上鹿渡先生から、人間関係を作るための土台となる、乳幼児期に形成される愛着形成は2歳半までの関わりが大きく影響する。そのためにもこの時期における里親の役割は重要だと話されました。パネルディスカッションでは2人の里親の方が実際の生活の場で感じておられることを話され、「大変なこともあります、子どもが来てくれたことで、自分たちの生活が豊かになっています。」「子どもがかわいくてかわいくてしょうがありません。職場でも理解を得られ、みんなに支えられています。」という言葉が印象に残りました。たくさんの方に関心を持っていただき、地域の中で子どもを支えていきたいと思えます。



2017年10月22日(日)に三重県総合文化センター男女共同参画センターにおいて「社会的養護の社会化フォーラム」を開催します。地域の中で家庭では育つことができない社会的養護が必要な子どもをどう支援していくか、様々な切り口で考え合う機会にしていきます。

**チャイルドラインチャリティー映画会「こどもこそミライ」**

平成28年12月7日(水) 農業屋コミュニティ文化センター  
3回上映(10:30~・13:30~・19:00~) 来場者数225名

今回で6回目となった映画会。子どもを主体とした保育を実践している3つの園の日常を追ったドキュメンタリー映画です。たくさんの方に観てもらいたいと思い実行委員会を立ち上げ、映画の内容や子育てのこと、地域での大人の関わりなど毎回色々な話し合いを重ねることで気持ちが1つになっていき、地域のお店や、子育て中の人が行きそうな場所などに、チラシの配布をおこないました。



未就学児も入場できるママさんタイムでは、子ども連れの方も多く観に来ていただけました。子どもが出てくるシーンに小さな子どもたちも見入っているのが印象的でした。子どもたちが思いをぶつけあい、泣き叫びながらも話し合う姿に衝撃を受けた方も多かったようです。気持ちを出しながら、お互いを受けとめ合える関係が作られていくのだと思いました。



午後の部が終わってからは、トーク会を開催しお茶を飲みながら、話し合いをしました。「私は人目を気にしたり、どう言おうかとほかのことを考えたりしながら会話することが多く、目の前のことに向き合っていない自分に気付かされた」という意見もありました。映画を通して、子ども一人ひとりが尊重されること、また、大人の関わりがとても大切だと感じました。

## 闇忍者

日時 10月15日(土) 18:00~20:00  
参加人数 小学5・6年生 26人  
(大人スタッフ725人)  
場所 松阪公園およびその周辺

辺りが薄暗くなり始めたころ、集まってきた参加者の子どもたちの中には、風呂敷を被るのを恥ずかしそうにする子どもや、ちょっと面倒くさそうに挨拶をする子どもがいました。そんな中で忍者修行が始まりました。始めは、殿町中学校の柔剣道場にて、子どもたち2~4人ほどの中に大人スタッフが入りグループになって、仲間忍者を探し出すための合言葉を決めたり、岩になったりするなど様々な修行をしました。月灯りの下、いざ！城跡へ！！

月見櫓を拠点にして、各グループが情報を集めて持ち寄り、巻物を取り返すための作戦を立てました。夜の暗い時間に松坂城跡を走り回ってあそぶという経験は、なかなか出来ないものですが、黒忍者に見つからないように息をひそめながら、巻物を取り返すことができました。

最後には天守閣跡にて子ども忍者 vs 大人忍者でチャンバラを行いました。始まったころとは全く違い、忍者となってあそびに夢中になっている子どもたちの姿と、その子どもたちと本気で遊ぶ大人スタッフの姿がありました。2戦して、どちらも子どもたちの勝利でした！全ての修行を終えた子どもたちは、「チャンバラが楽しかった〜！」「まだ帰りたくないなあ！」「友だちできたよ！」と顔をほころばせながら話していました。「高学年の子どもとどう接したらいいのか緊張したけど、楽しめた。」という声が聞かれました。

## こどもも おとなも

# まちをあそぶ



(特) 松阪子ども NPO センターは、今年度、子どもが育つ土台となる「あそび」が大切だと考え、街の中で子どもと大人があそび合う体験の場など4つの事業を企画しました。

「講演会」「大人のワークショップ」では、子どもたちに寄り添い、子どもの支援者になっていただきたいと参加を呼びかけました。当日は、大人スタッフとして忍者になる体験を積み重ね、本気で子どもと向き合いあそびました。

「闇忍者」「まちをあそぶ」は、松坂城跡や中心商店街を使いあそびました。松坂城跡では暗闇の中、木々が風で揺れる音や月の光に照らし出される影などにたくさん心を動かし、街の中では人々やさまざまなものに出会い、あそびの魅力に引き込まれていきました。初めて出会った仲間とコミュニケーションを取りながら目的に向かって創意工夫する様子が見られ、自然に親しくなっていきました。街を使ってあそんだこの体験が、子どもたちの原風景として残っていくのではないのでしょうか。

## まちをあそぶ

日時 10月16日(日) 14:00~16:00  
参加人数 小学1~4年生 53人  
(大人スタッフ722人)  
場所 松阪市内商店街

午前中、大人スタッフによる事前のワークショップがあり、お互いの共通点を探し合い、仲間づくりをしました。自然と関係づくりができ、体も心もほぐすことができました。午後には、元気な子どもたちが集まり、「まちをあそぶ」が始まりました。

子ども3~4人の中に大人スタッフが入りグループになって岩になるなどの修行をした後に、いざ！商店街へ！！手がかりとなる写真をもとに、商店街の中に隠れている“道場主”を見つけ出す修行をしました。あちこちに風呂敷を被った子ども忍者と大人忍者の姿があり、子どもたちの声が響き渡り、商店街がとても賑やかでした。黒忍者に見つからないように身を隠したり、お地蔵様になったりしながら“道場主”を見つけ出しました。

終わりに、子ども忍者 vs 大人忍者で樹敬寺の境内でチャンバラをしました。始まる前に、「チャンバラって何？」と言う子どももいました。新聞紙を丸めて作った剣で、切ってもいいのは膝から下だけというルールのもと、敵のチームから旗を奪い合いました。大人忍者も必死で、全力を出してあそびました。

今回の「まちをあそぶ」に参加をした子どもたちは、心の底から楽しんでいるように見えました。感想を聞いた時にも、「楽しかったー！もっとしたかった！」と満足そうな表情が印象的でした。大人スタッフとして参加していた方たちも、「子どものときに戻ったように楽しめて、参加して良かったです。」と話されていました。

## 商店街への取り組み



「まちをあそぶ」を取り組むに当たり、最初に松阪市商店街連合会に企画を持っていき、この事業の目的や思いを伝えました。子どもたちが忍者になって、道場主(商店主)を探しに行くため、10軒ほどのお店に協力をお願いに行き、その後、商店街の各々のお店に挨拶に伺いました。15年前の「本居宣長没後200年事業」の時にお世話になり、今回もご協力いただきました。

日曜日の14時~16時の間に小学生(1年~4年)がグループになり、風呂敷を被りお店に来るかもしれない事、お店に入って来たら対応をしていただきたいという事をお願いしました。子どもたちが忍者になって街を歩くということだけで、顔がほころび、どのお店も快く引き受けてくださいました。当日は、子どもたちが来るのを待ち切れずに、お店の外に出て、迎えてくださる道場主もあり自分たちが住んでいる街をあそぶことができました。

